

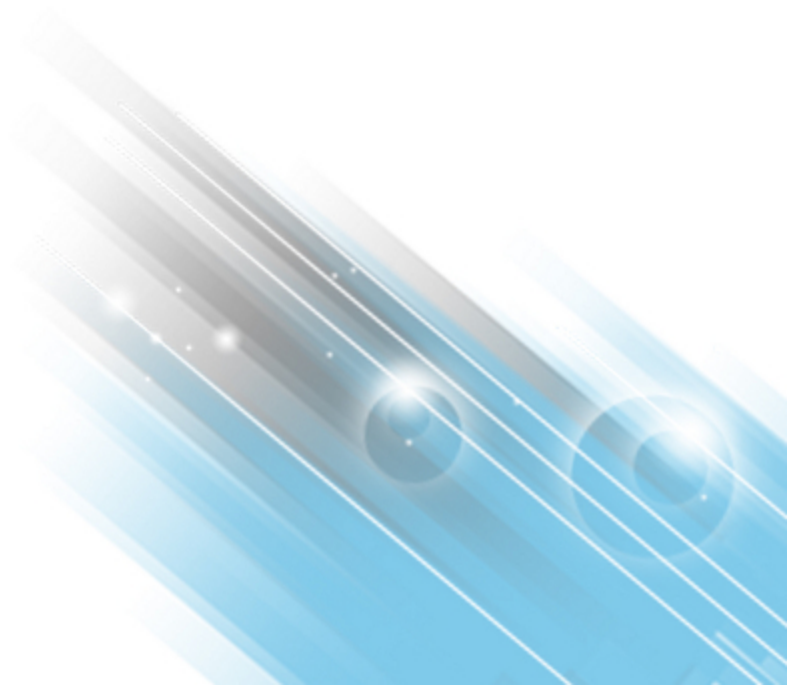


# HP Virtualization Performance Viewer

ソフトウェアバージョン :2.20  
Linuxオペレーティングシステム

## インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2015年6月  
ソフトウェアリリース日: 2015年6月



## ご注意

## 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

## 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

## 著作権について

© Copyright 2012-2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## 商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® およびWindows® は、米国におけるマイクロソフト企業グループの登録商標です。

Unix® はThe Open Groupの登録商標です。

## 謝辞

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) (英語サイト) により開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) (英語サイト) で使用する、OpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、Eric Young ([eay@cryptsoft.com](mailto:eay@cryptsoft.com)) が作成した暗号化ソフトウェアが含まれています。

本製品には、Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)) が作成したソフトウェアが含まれています。

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) (英語サイト) により開発されたソフトウェアが含まれています。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行うことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passportのログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細については、HPの営業担当にお問い合わせください。

# サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、以下のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このWebサイトのURLは、<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

# 目次

第1章: はじめに .....	6
本ドキュメントで使用される表記法 .....	6
第2章: インストールの必要条件 .....	8
ハードウェアの必要条件 .....	8
サポートされるブラウザ .....	9
第3章: HP vPVの以前のバージョンからのHP vPV 2.20へのアップグレード .....	11
インストーラーを使用したHP vPVのアップグレード .....	11
仮想アプライアンスを使用したHP vPVのアップグレード .....	12
アップグレードの検証 .....	14
第4章: HP vPVのインストール .....	15
開いている必要のあるポート .....	15
HP vPV仮想アプライアンスのデプロイ .....	16
LinuxノードでのHP vPVのインストール .....	17
在席操作によるインストール .....	19
非在席操作によるインストール .....	22
インストールの確認 .....	22
第5章: はじめに .....	23
第6章: HP vPVの設定 .....	24
Tomcatサーバーでのセキュリティ保護された通信の設定 .....	24
デフォルト以外のポートで実行しているvCenterサーバーの追加 .....	25
HP vPVコマンドの使用 .....	26
リモートのHP Verticaと通信するためのHP vPVの設定 .....	26
第7章: ライセンス管理 .....	30
ユーザーインターフェイス .....	30
ライセンスのタイプ .....	31
ライセンスのインポート .....	36
第8章: HP vPVの削除 .....	37
HP vPV仮想アプライアンス .....	37
LinuxノードからのHP vPVの削除 .....	37
構成およびユーザーグラフテンプレートの削除 .....	37
クリーンアップスクリプトを使用したHP vPVファイルの削除 .....	37
第9章: HP vPVのトラブルシューティング .....	39

付録:HP vPV仮想アプライアンスに付属するRPM .....	45
ドキュメントに関するフィードバックの送信 .....	53

# 第1章: はじめに

HP Virtualization Performance Viewer (HP vPV) は、仮想化環境の要素のパフォーマンス傾向を分析するWebベースの分析視覚化ツールです。このツールは、環境の概要、ほぼリアルタイムのデータ分析、履歴データ分析を提供し、インタラクティブなダッシュボードの使用による優先順位付けを行うことで、仮想化環境の監視を可能にします。また、クラウドおよびハイパーバイザー環境での監視も可能にします。HP vPVによって、要素のパフォーマンスデータが相互のコンテキストにおいて可視化され、迅速にボトルネックを分析できるようになります。HP vPVはパフォーマンス監視、グラフ生成、レポート機能を単一のインターフェイスで提供します。

HP vPVの主な機能は次のとおりです。

- 仮想化環境のヘルスおよびパフォーマンスをダッシュボードビューから監視します。
- ワークベンチでトリアージ分析を行い、数日間、数週間、および1か月間のサーバー使用状況の傾向を調べる機能を提供します。
- 環境内で障害を発生させる可能性のあるエンティティを事前監視します。ツリーマップを使用して問題をわかりやすく特定および表示します。
- 仮想化環境におけるさまざまなリソースの容量、使用率、および割り当て傾向を分析します。
- 過去のリソース使用率を基に適正サイズに関する推奨事項を提示し、未使用リソースを再利用します。
- ワークロードの増加による影響を分析します。
- 環境にリソースを追加または環境からリソースを削除することの影響を判断します。
- 将来の容量使用率を見積もり、ハードウェア要件を事前に計画します。
- ツリーマップ、ワークベンチ、予測で一括して分析するためにVM、ホスト、およびデータストアをビジネスグループとしてグループ化します。

## 本ドキュメントで使用される表記法

本書ではHP Virtualization Performance Viewer (HP vPV) システムのファイルの位置を示す際、次の表記法が使用されています。

表記法	説明	値
<install_dir>	HP vPVがインストールされているディレクトリです。	Linuxシステムでは、インストールディレクトリは/opt/OVです。
<data_dir>	HPソフトウェア製品関連のデータファイルやログファイルが格納される共通データディレクトリ	データディレクトリは、/var/opt/OVです。

表記法	説明	値
	リです。	

## 第2章: インストールの必要条件

インストール中、インストーラーは次のタスクを実行します。

- システムがディスク容量の必要条件を満たしているかどうかを確認します。ディスク容量の詳細については、「[ハードウェアの必要条件](#)」を参照してください。
- システムに他のHPソフトウェア製品がインストールされているかどうかを確認します。例:HP vPVとHP Operations Agent version 11.14が共存している。
- システムのディスク容量と検出されたその他のHPソフトウェア製品の詳細ログを提供します。
- インストールされているコンポーネントの一覧を提供します。

**注:** HP vPVは、Linuxオペレーティングシステムのx64ビットバージョンのみをサポートします。

HP Operations Agentとの共存のために使用される次のファイルの場所が変更されています。

ファイル名	古い場所	新しい場所
Viserver.properties	/var/opt/perf	/var/opt/OV/conf/PV
VILog4j.xml	/var/opt/perf	/var/opt/OV/conf/PV
pvc.d.jar	/opt/perf/bin/java	/opt/OV/lbin/PV/java
log4j-1.2.17.jar	/opt/perf/bin/java	/opt/OV/lbin/PV/java

**注:**

- 共通のjarsファイルは /opt/OV/lbin/PV/javaに移動されます。テクノロジー固有のjarsはSMEPackの一部です。たとえば、VMWAREコレクターに必要なjarsは、**VMWARE** SMEPack内の**java**フォルダーに存在します。

/opt/OV/newconfig/OVPM/smepack/VMWARE/java

- 設定ファイルOVPMconfig.iniは廃止されたため、使用されなくなっています。

## ハードウェアの必要条件

HP vPVをインストールするための最低限のハードウェア要件は、次のとおりです。

項目	値
CPU	2 vCPU



項目	値
メモリ	4 GB
ディスク	66 GB
/opt/	700 MB
/var/opt/OV	50 GB

動作が遅いシステムやメモリの容量が少ないシステムにインストールすると、パフォーマンスが低下する場合があります。

次の表に、HP vPVをプレミアムライセンスおよびエクスプレスライセンスで使用するためのハードウェア要件を示します。

ライセンス	vCPU	RAM	ディスク容量	監視されるインスタンス
エクスプレス	2	4 GB	66 GB	2000*
プレミアム	2	4 GB	66 GB	1000

\*RAMおよびCPUを増加させることで、HP vPVで2000を超えるインスタンスを監視することができます。詳細については、『HPVirtualization Performance Viewer Sizing Guide』を参照してください。

## サポートされるブラウザ

次の表に、HP vPVにアクセスするために必要なWebブラウザの一覧を示します。

オペレーティングシステム	サポートされるブラウザ
Microsoft Windows	Firefox 24 (ESR) Internet Explorer 10 Internet Explorer 9 (限定的なサポート) Google Chrome (最新バージョン)
Linux	Firefox 24 (ESR)

HP vPVホームページを表示するには、Adobe® Flash Player 10.2以降をインストールし、Internet Explorer (IE) またはMozilla Firefoxブラウザで信頼済みサイトのリストにHP vPVを追加して、JavaScriptのサポートを有効にします。

### サポートマトリックス

次の表に、HP vPVのサポートマトリックスを示します。

配布物	プラットフォーム/バージョン
Linuxインストーラー	RHEL 6.4 (64ビット)、6.5 (64ビット) CentOS 6.4 (64ビット)、6.5 (64ビット) Oracle Enterprise Linux 6.5 (64ビット) (Red Hat互換カーネル) HP vPVはUnbreakable Kernel (uel/uekサフィックス付きカーネル) をサポートしません。
仮想アプライアンス	CentOS 6.5

## 第3章: HP vPVの以前のバージョンからのHP vPV 2.20へのアップグレード

HP vPVはバージョン2.01および2.10からのみ2.20にアップグレードできます。次の表に、サポートされるアップグレードシナリオを示します。

アップグレードシナリオ	手順
HP vPVをバージョン2.10からバージョン2.20にアップグレードする	次の2つの方法でHP vPV 2.20にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インストーラーを使用したHP vPVのアップグレード</li><li>• 仮想アプライアンスを使用したHP vPVのアップグレード</li></ul>
HP vPVをバージョン2.01からバージョン2.20にアップグレードする	次の2つの方法でHP vPV 2.20にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インストーラーを使用したHP vPVのアップグレード</li><li>• 仮想アプライアンスを使用したHP vPVのアップグレード</li></ul>

**注:**HP vPVは、バージョン2.01および2.10からのみ2.20にアップグレードできます。HP vPVのアップグレードにはかなりの時間がかかります。HP vPVをバージョン1.00、1.10、1.20、または2.00からバージョン2.20に直接アップグレードすることはできません。また、ロールバックをサポートしていないため、2.20にアップグレードする前にHP vPV 2.01または2.10マシンのスナップショットを取得していることを確認してください。

### インストーラーを使用したHP vPVのアップグレード

すでにHP vPVの以前のバージョンがご使用の環境にインストールされている場合にバージョン2.20にアップグレードする場合は、**.tar**ファイルを使用します。**.tar**ファイルをローカルマシン上にダウンロードして、HP vPVをVMにインストールします。

HP vPVをVMにインストールするには、「[LinuxノードでのHP vPVのインストール](#)」(17ページ)を参照してください。

**注:**アップグレード後にシステムを再起動することをお勧めします。再起動後に、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してHP vPVサーバーを開始する必要があります。



```
pv start
```

## 仮想アプライアンスを使用したHP vPVのアップグレード

すでにHP vPVの以前のバージョンが仮想アプライアンス上にデプロイされている場合に2.20にアップグレードする場合は、次の2つの操作を使用できます。

- **「CDROMの更新の使用 (.isoの使用)」**
- **「指定したリポジトリの使用 (.zipの使用)」**

### CDROMの更新の使用 (.isoの使用)

1. VMware vSphere Clientにログオンします。
2. 左ペインで、アップグレード対象のHP vPVマシンを選択します。
3. **[仮想マシンのCD/DVDデバイスを接続/ 取り外す]**  アイコンをクリックします。**[CD/DVDドライブ1]**を選択します。
4. **[ローカルディスクのISOイメージに接続]** をクリックします。Windows Explorerが表示されます。
5. HPPV\_VA\_2.20.xxx\_UPDATE.isoファイルを選択します。**[開く]** をクリックします。
6. HP vPVインターフェイスで、**[設定]**  アイコンをクリックします。
7. **[vPV仮想アプライアンス管理の起動]** リンクを使用して、HP vPV Virtual Appliance Management Webインターフェイスを起動します。
8. ユーザー名**root**を使用して、HP vPV仮想アプライアンスにログインします。デフォルトのパスワードは**vperf\*viewer**です。
9. **[更新]** タブをクリックします。**[更新ステータス]** ページが表示されます。
10. **[設定]** をクリックします。**[設定の更新]** ページが表示されます。
11. **[リポジトリの更新]** セクションで、**[CDROMの更新を使用する]** を選択します。
12. **[ステータス]** をクリックします。**[更新ステータス]** ページが表示されます。
13. **[更新の確認]** をクリックします。利用可能な更新が表示されます。
14. 更新を選択して**[更新のインストール]** をクリックします。アップグレードプロセスが始まります。

- アップグレードプロセスが完了すると、「HP vPV 2.20のアップグレードが正常に完了しました」メッセージが表示されます。
- バージョン2.20がインストールされているHP vPVマシンにログオンします。
- コマンドプロンプトに移動して、次のコマンドを実行してHP vPVマシン上のVMwareで使用されるOpenSSLソフトウェアを更新します。

```
yes | cp -f /usr/lib64/libssl.so.1.0.1e /opt/vmware/lib/libssl.so.0.9.8
```

```
yes | cp -f /usr/lib64/libssl.so.1.0.1e /opt/vmware/lib/libssl.so.0.9.8r
```

```
yes | cp -f /usr/lib64/libcrypto.so.1.0.1e /opt/vmware/lib/libcrypto.so.0.9.8
```


```
yes | cp -f /usr/lib64/libcrypto.so.1.0.1e /opt/vmware/lib/libcrypto.so.0.9.8r
```

```
/etc/init.d/vami-sfcb restart
```

```
/etc/init.d/vami-lighttpd restart
```

最新の更新でOpenSSLソフトウェアが更新されます。

#### 指定したリポジトリの使用 (.zipの使用)

- サーバー (WebまたはFTP) の場所にあるWebフォルダーのHPPV\_VA\_2.20.xxx\_UPDATE.zipをダウンロードして解凍します。
- HP vPVインターフェイスで、[設定]  アイコンをクリックします。
- [vPV仮想アプライアンス管理の起動] リンクを使用して、HP vPV Virtual Appliance Management Webインターフェイスを起動します。
- ユーザー名rootを使用して、HP vPV仮想アプライアンスにログインします。デフォルトのパスワードはvperf\*viewerです。
- [更新] タブをクリックします。[更新ステータス] ページが表示されます。
- [設定] をクリックします。[設定の更新] ページが表示されます。
- [リポジトリの更新] セクションで、[指定したリポジトリを使用する] を選択します。
- [リポジトリのURL] ボックスに、更新ファイルを解凍したサーバー (WebまたはFTP) の場所を入力します。
- [ユーザー名] および [パスワード] ボックスで、ユーザー名とパスワードがある場合はそれらを入力します。
- [設定の保存] をクリックします。
- [ステータス] をクリックします。[更新ステータス] ページが表示されます。
- [更新の確認] をクリックします。利用可能な更新が表示されます。
- 更新を選択して[更新のインストール] をクリックします。アップグレードプロセスが始まります。
- アップグレードプロセスが完了すると、「HP vPV 2.20のアップグレードが正常に完了しました」メッセージが表示されます。
- バージョン2.20がインストールされているHP vPVマシンにログオンします。

16. コマンドプロンプトに移動して、次のコマンドを実行してHP vPVマシン上のVMwareで使用されるOpenSSLソフトウェアを更新します。

```
yes | cp -f /usr/lib64/libssl.so.1.0.1e /opt/vmware/lib/libssl.so.0.9.8
yes | cp -f /usr/lib64/libssl.so.1.0.1e /opt/vmware/lib/libssl.so.0.9.8r
yes | cp -f /usr/lib64/libcrypto.so.1.0.1e /opt/vmware/lib/libcrypto.so.0.9.8
yes | cp -f /usr/lib64/libcrypto.so.1.0.1e /opt/vmware/lib/libcrypto.so.0.9.8r
/etc/init.d/vami-sfcb restart
/etc/init.d/vami-lighttp restart
```

最新の更新でOpenSSLソフトウェアが更新されます。

**注:**旧バージョンのHP vPVを最新バージョンにアップグレードする際にVAMI Webサーバーの設定が変更されます。元の設定は変更前にバックアップされます。VAMIの設定を元に戻すには、次の手順を実行します。

1. ルートとしてHP vPV仮想アプライアンスにログオンします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
cp /opt/vmware/etc/lighttpd/lighttpd.conf.vPV cp /opt/vmware/etc/lighttpd/lighttpd.conf
/etc/init.d/vami-lighttp restart
```

## アップグレードの検証

次のいずれかを実行して、HP vPVバージョン2.20へのアップグレードを検証できます。

- HP vPVインターフェイスで、[ヘルプ] アイコンに移動して、[HP vPVについて] をクリックします。バージョン情報が記載されたダイアログボックスが表示されます。
- コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してバージョンを確認します。

```
pv version
```

**注:** アップグレード後、次のコマンドを使用してHP vPVプロセスのステータスを確認することを推奨します。

```
/opt/OV/bin/ovc
```

実行していないプロセスがある場合、次のコマンドを使用してそのプロセスを再起動します。

```
pv restart
```

## 第4章: HP vPVのインストール

本項では、HP vPVをインストールするいくつかの方法を示します。

- 「[HP vPV仮想アプライアンスのデプロイ](#)」
- 「[LinuxノードでのHP vPVのインストール](#)」

**注** :HP vPVはバージョン2.01および2.10からのみバージョン2.20に直接アップグレードできます。

### 開いている必要のあるポート

HP vPVでは、ファイアウォールで次のポートが開いている必要があります。

ポート	プロトコル	説明
8081	HTTP	HP vPVがインストールされているシステムにファイアウォールが存在する場合に、HP vPVにリモートブラウザからアクセスできるようにするためのポート。
8444	HTTPS	HP vPVにHypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS) モードでアクセスするためのポート。
5480、5488、5489	HTTPS	VAMI (Virtual Appliance Management Interface) にアクセスするためのポート。 HP vPV仮想アプライアンスのアップグレードを実行しない場合は、ポート5489を無効のままにすることをお勧めします。
383	HTTPS	HP vPVの内部通信プロセスのためのポート。
5433	HTTPS	HP vPVのデータベース要件 (HP Vertica) のためのポート。
443	HTTPS	VMware vSphereターゲットからのデータ収集のためのポート。
5671	HTTPS	HP OneViewターゲットからのデータ収集のためのポート。
135	TCP	Hyper-Vターゲットからのデータ収集のためのポート。WindowsプロキシシステムとHyper-Vホスト間のポートは、Hyper-Vホスト上で開かれている必要があります。

ポート	プロトコル	説明
		ます。
8100	HTTPS	SCVMMターゲットからのデータ収集のためのポート。WindowsプロキシシステムとSCVMMホスト間のポートは、SCVMMホスト上で開かれている必要があります。
22	SSH	KVMおよびXenターゲットからのデータ収集のためのポート。
35357 (管理)、8774 (Nova)	HTTPS	OpenStackターゲットからのデータ収集のためのポート。

## HP vPV仮想アプライアンスのデプロイ

HP vPVを仮想アプライアンスとして使用することで、vCenterで簡単にデプロイできます。VMware vSphere Clientユーザーインターフェイスを使用して、仮想アプライアンスをデプロイできます。

VMware vCenter Serverのバージョン5.0、5.1、5.5および6.0をサポートしています。

HP vPV仮想アプライアンスをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. VMware vSphere Clientを開きます。
2. 資格情報を入力し、**[ログイン]**をクリックします。
3. **[ファイル] > [OVFテンプレートのデプロイ]**の順に選択します。**[OVFテンプレートのデプロイ]**ウィンドウが開きます。
4. **[参照]**をクリックして、HP vPV仮想アプライアンスファイルを保存している場所を参照します。
5. **[次へ]**をクリックします。ウィンドウに、仮想アプライアンスの詳細が表示されます。
6. **[次へ]**をクリックします。エンドユーザーライセンス契約の詳細が表示されます。
7. **[同意]**をクリックし、**[次へ]**をクリックします。
8. **[名前]**フィールドに仮想アプライアンスの名前を入力します。
9. **[インベントリの場所]** ツリーから仮想アプライアンスのデプロイ先を選択します。**[次へ]**をクリックします。
10. 仮想アプライアンスを実行する場所としてホストまたはクラスターを選択します。**[次へ]**をクリックします。
11. 仮想アプライアンスを実行する場所として特定のホストを選択します。**[次へ]**をクリックします。
12. 仮想マシンファイルの保管先のストレージ場所を選択します。**[次へ]**をクリックします。
13. 仮想ディスクを保管するためのディスク形式を選択します。**[次へ]**をクリックします。



14. 必要なネットワークプロパティを入力して、[次へ]をクリックします。ウィンドウに、デプロイメントの詳細が表示されます。
15. [デプロイ後にパワーオン]チェックボックスを選択します。
16. [完了]をクリックします。デプロイメントタスクが開始します。デプロイ後、仮想アプライアンス名がVMware vSphere Clientユーザーインターフェイスのツリーに表示されます。

**注:** 詳細については、VMwareのマニュアルを参照してください。VMwareによっては、手順が変更される場合があります。

### 仮想アプライアンスへのログイン

ユーザー名rootを使用して、HP vPV仮想アプライアンスにログインできます。デフォルトのパスワードはvperf\*viewerです。このパスワードは、ログイン後に変更することを推奨します。

## LinuxノードでのHP vPVのインストール

### Linuxベースのインストーラーの前提条件

HP vPVのインストーラーバージョンの前提条件は次のとおりです。

- HP vPVサーバーにLibvirtとそのすべての依存関係をインストールします。  
Libvirtは、Linux、KVM、Xenなどの仮想プラットフォームを管理するためのオープンソースの管理ツールです。  
Libvirtは、次のLinux配布のバージョンにインストール可能です。

Linuxのタイプ	OSのバージョン
CentOS	6.4 (64ビット) 6.5 (64ビット)
RHEL	6.4 (64ビット) 6.5 (64ビット)
Oracle Enterprise Linux	6.5 (64ビット) (Red Hat互換カーネル) HP vPVはUnbreakable Kernel (uel/uekサフィックス付きカーネル)をサポートしません。

- HP vPVサーバーにExpectとそのすべての依存関係をインストールします。  
Expectは、sshなどのインタラクティブなプログラムと通信するツールです。
- HP vPVスタンドアロンインストールの場合、最新のunixODBCパッケージをインストールします(まだ使用可能でない場合)。  
unixODBC Driver Managerは、データソースにアクセスするための予測可能なAPIをアプリケーション開発者に提供するオープンソースのODBCドライバーマネージャーです。

- RHELに割り当てられたホスト名が完全修飾ドメイン名 (FQDN) で、DNSによって解決可能であることを確認します。DNSが環境において設定されていない場合、`/etc/hosts`ファイルでIPアドレスのマシン名マッピングを追加します。
- HP vPVをインストールするには、次のランタイムライブラリおよびパッケージが必要です。
  - x64システム:
    - `glibc-2.3.4-2.36.i686.rpm`
    - `libgcc-3.4.6-8.i386.rpm`
    - `libstdc++-3.4.6-8.i386`
    - `libtool-ltdl-2.2.6-15.5.el6.x86_64.rpm`
    - `unixODBC-2.2.14-12.el6_3.x86_64.rpm`
    - `ntpdate-4.2.6p5-1.el6.x86_64.rpm`
    - `libedit-2.11-4.20080712cvs.1.el6.x86_64.rpm`
    - `ntp-4.2.6p5-1.el6.x86_64.rpm`
    - `gdb-7.2-60.el6_4.1.x86_64.rpm` (pstackをインストールする場合)
    - `mcelog-1.0pre3_20120814_2-0.13.el6.x86_64.rpm`
    - `sysstat-9.0.4-22.el6.x86_64.rpm`
  - パッケージを確認するには、次のコマンドを使用します。  
`rpm -qa | grep -i <パッケージ名>`  
ここで、`<パッケージ名>`は確認するパッケージの名前です。
  - C++ランタイム:
    - カーネルバージョン2.6を備えたシステムの場合:  
**`/usr/lib/libstdc++.so.5`**
    - Itanium上にカーネルバージョン2.6を備えたシステムの場合:  
**`/usr/lib/libstdc++.so.6`**
  - Cursesランタイムライブラリ:  
**`/usr/lib/libncurses.so.5`**
  - unixODBCランタイムライブラリ:  
**`/usr/lib64/libodbc.so`**
  - m4ユーティリティがパス`/usr/bin/m4`にインストールされていることを確認します。
  - 環境で、次のパスのいずれか適切なパスにlibvirtライブラリの実行可能 (x) ビットを設定します。
    - **`/usr/lib64/libvirt.so`**
    - **`/usr/lib64/libvirt.so.0`**

- `/usr/lib/libvirt.so`
- `/usr/lib/libvirt.so.0`
- タイムゾーンを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# env | grep TZ  
TZ=EST5EDT
```

#### HP Verticaの前提条件:

- HP Verticaは、データベースファイルが保存されているドライブ上では、論理ボリュームマネージャー (LVM) をサポートしません。HP vPVインストーラーは、`/var/opt/OV`パーティションがLVMの場合、終了します。
- Linuxのファイルシステムタイプは**ext3**または**ext4**のいずれかである必要があります。その他のすべてのファイルシステムタイプはサポートされません。
- SELinuxがpermissiveモードで実行されている場合を除き、HP VerticaではSELinuxはサポートされません。
- `/var/opt/OV`パーティションは最低でも50 GBのディスク容量を持つ必要があります。
- システムにインストールされているRAMの量に関係なく、少なくとも2GB以上のスワップパーティションが必要です。
- 論理プロセッサあたり最小で1GBのRAM。

HP Verticaの前提条件の詳細については、『HP Vertica Analytic Database Installation Guide』を参照してください。

次のいずれかの手順を使用してHP vPVをインストールできます。

- [「在席操作によるインストール」](#)
- [「非在席操作によるインストール」](#)

**注:** システムにHP vPVをインストールするには、rootユーザーとしてログオンする必要があります。

## 在席操作によるインストール

グラフィックインターフェイスおよびコマンド行インターフェイスを介してHP vPVをインストールするには、次の手順を実行します。

### グラフィックインターフェイスを介してのHP vPVのインストール

X11インターフェイスを使用してHP vPVをインストールするには、次のタスクを実行します。

1. まず、rootユーザーとしてログオンします。
2. `.tar`ファイルをダウンロードします。`.tar`ファイルのコンテンツを展開します。
3. X11ターミナルウィンドウを使用してインストールを開始する場合は、次のコマンドを入力する

ことで、DISPLAY変数をエクスポートしてX11ターミナルをポイントします。

```
export DISPLAY=<IP_Address/system_name>:0.0
```

ここで、<IP\_Address/system\_name>はX11ターミナルのIPアドレスまたはシステム名です。

4. 次を入力します。

```
<tarファイルが展開されるディレクトリ>/HPPV_2.20.xxx_setup.bin
```

HP vPVインストールウィザードが表示されます。このウィンドウに、紹介メッセージが表示されます。

**注:** Linuxシステムに初めてHP vPVをインストールする場合は、インストールパラメーターを含むovinstallparams.iniファイルがシステムのtemporaryディレクトリに作成されます。インストール時、HPインストーラーによってovinstallparams.iniファイルの確認が実行されます。HPインストーラーがシステムでovinstallparams.iniファイルを検出すると、このファイルの値を再利用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 構成ファイルの値をデフォルト値として使用する場合は、**[はい]**をクリックします。
- 既存の構成ファイルを上書きする場合は**[いいえ]**をクリックします。

HPインストーラーがファイルを検出しない場合、システムによってデフォルト値を含むovinstallparams.iniファイルがtemporaryディレクトリに作成されます。ovinstallparams.iniデータを保存するには、その他のHP製品をインストールする前にファイルを別の場所にコピーします。

5. HP vPVインストールウィザードで**[次へ]**をクリックします。ライセンス契約の画面が表示されます。
6. ライセンス契約の条件を確認します。インストールを続行するには、**[ライセンス使用許諾に同意します]**オプションを選択します。インストールウィザードによってインストールチェックが実行されます。
7. **[次へ]**をクリックします。インストール前の概要の画面が表示されます。この画面には、インストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。

**注:** HP vPVバージョン2.01または2.10がシステムに存在している場合、すでにインストール済みのコンポーネントパッケージを強制的に再インストールするよう求められることがあります。

8. **[インストール]**をクリックします。

**注:** インストールが失敗した場合は、ロールバックするか、インストールを中止できます。**[ロールバック]**オプションでは、すでにインストールされているコンポーネントを削除します。

**[終了]**をクリックすると、インストールが終了しますが、その時点ですでにインストールされているコンポーネントはアンインストールされません。

次回HP vPVのインストールを開始するとき、インストーラーによってHP vPVのインストールを再開するか、アンインストールするかを確認するプロンプトが表示されます。

9. [詳細]タブをクリックし、コンポーネントツリーを展開して、コンポーネントの一覧を表示します。
10. システムのログファイルを表示するには、[ログファイルの表示]をクリックします。
11. [完了]をクリックして、インストールを終了します。

**注:** システムを再起動する必要がある場合は、インストールの完了後に「システムの構成の変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。インストールを終了しますか?」というメッセージが表示されます。

インストール後にシステムを再起動することをお勧めします。

### コマンド行インターフェイスを介してのHP vPVのインストール

**注:** コンソールモードでHP vPVをインストールする際はローカリゼーションはサポートされません。この結果、一部のテキストは判読できない場合があります。

コマンド行インターフェイスを介してHP vPVをインストールするには、次の手順を実行します。

1. まず、root ユーザーとしてログオンします。
2. .tarファイルをダウンロードします。 .tarファイルのコンテンツを展開します。
3. 次のコマンドを実行します。

スタンドアロンシステムにHP vPVをインストールする場合

```
<tarファイルが展開されるディレクトリ>/HPPV_2.20.xxx_setup.bin -i console
```

次の言語のいずれかをシステムのロケールとして設定している場合:英語、日本語、簡易中国語を設定している場合、インストールの開始時にインストーラーによってその言語を選択するように求められます。システムのロケールに設定されている言語を選択するためのオプションが用意されています。システムのロケールがこれら以外の言語に設定されている場合、インストーラーは「英語」のみを表示します。

4. ライセンス情報の「**ライセンス使用許諾に同意します**」というプロンプトが表示されたら、「Y」を入力して契約条項に同意し、インストールを続行します。インストーラーによってすべてのインストール要件がチェックされます。
5. **Enter**をクリックして続行します。インストール前の概要が表示されます。

**注:** HP vPVバージョン2.01または2.10がシステムに存在している場合、すでにインストール済みのコンポーネントパッケージを強制的に再インストールするよう求められることがあります。続行するには [はい] を選択します。

6. **Enter**をクリックして続行します。  
インストールが完了すると、インストールが正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

## 非在席操作によるインストール

非在席操作によるインストールを実行するには、次の手順を実行します。

1. rootユーザーとしてログインします。
2. **.tar**ファイルをダウンロードします。**.tar**ファイルのコンテンツを展開します。
3. **.tar**ファイルが展開されているディレクトリに移動します。
4. コマンドプロンプトで、次の構文を入力します。

```
./HPPV_2.20.xxx_setup.bin -i silent
```

**注:** インストーラーによって正常に動作するHP vPVのインストールが検出されると、HP vPVがアンインストールされます (-i silent コマンドの実行時)。検出されない場合は、HP vPVがインストールされます。

5. インストールを検証するには、ログファイルを確認します。

/tmp/HPOvInstaller/HPPVInstallLog.txtにあるHP vPVインストーラーログファイルを表示できます。

## インストールの確認

正常なインストールの場合

- Linuxシステムでは、アプリケーションディレクトリおよびデータディレクトリのパスが表示されます。
- 次のインストールログファイルを表示できます。

Linuxの場合 :/tmp/HPPV\_2.xx.xxx\_HPPVInstaller.txt

/var/tmp/HPOvInstaller/PerfUtil-mm-dd-yyyy.log.0

この場合、mmは月、ddは日、yyyyは年を示します。ファイル名は、インストールが実行された時間を示します。

## 第5章: はじめに

HP vPVのインストール後、ユーザーインターフェイスにアクセスして製品の使用を開始できます。HP vPVを起動するには、次のURLを使用できます。

**https://<システム名>:<ポート>/PV**

この例では、

システム名はHP vPVが設定されているマシンのIPアドレスまたはホスト名です。

ポートはHP vPVが設定されているポート番号です。デフォルトのポート番号は8444です。

**PV**は大文字と小文字が区別されます。

**注** :HTTPプロトコル (**http://<システム名>:<ポート>/PV**) を使用してHP vPVにアクセスする場合、自動的にセキュリティ保護されたHP vPV URL (**https://<システム名>:<ポート>/PV**) にリダイレクトされます。

認証が有効になっている場合、ユーザー名とパスワードを使用してログインします。初回の起動時に[管理] ページが開きます。

製品の使用を開始するには、監視するデータソースを追加します。データソースの追加の詳細については、『HP Virtualization Performance Viewerオンラインヘルプ』を参照してください。

## 第6章: HP vPVの設定

本項では、HP vPVを設定するためのいくつかの方法を示します。

- Tomcatサーバーでのセキュリティ保護された通信の設定
- デフォルト以外のポートで実行しているvCenterサーバーの追加

### Tomcatサーバーでのセキュリティ保護された通信の設定

HP vPVでは、HTTPSプロトコルがデフォルトで有効になっています。HTTPSのデフォルトのポート番号は8444です。セキュアモードでHP vPVにアクセスするには、次のURLを使用します。

```
https://<システム名>:8444/PV
```

HTTPS通信のデフォルトのポート設定を変更することもできます。

#### ポート設定の変更

HP vPVにアクセスするためのデフォルトのHTTPSポート番号は8444です。HP vPVサーバーへの接続は、すべてのクライアントシステムに許可されています。HP vPVサーバーのデフォルトのポート番号を変更するには、次の手順を実行します。

1. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して、目的のポート番号を利用できるかどうかを確認します。

```
cd <bin_dir>
```

```
ovtomcatbctl -checkport <ポート番号>
```

ポートが利用可能である、または使用中であることを示すメッセージが表示されます。たとえば、ポート番号8444が利用可能かどうかを確認すると、そのポートが利用可能であれば「Port Number 8444 is not in use (ポート番号8081は使用されていません)」というメッセージが表示されます。ポート番号8444を利用できない場合、そのポート番号が別のプログラムまたはサービスにより使用中であることを示すメッセージが表示されます。

2. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してHP vPVを停止します。

```
pv stop
```

3. HP vPVサーバーのHTTPSのポート番号を変更するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
cd <bin_dir>
```

```
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPPort <port number>
```

```
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPSPort <port number>
```



4. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してHP vPVサーバーを開始します。

```
pv start
```

#### Tomcat WebサーバーでのSSLまたはHTTPSの使用

Tomcat WebサーバーでSSLプロトコルまたはHTTPSプロトコルを使用するには、HP vPVのインストール後にTomcatのサーバー証明書を取得する必要があります。HP vPVのインストール後に取得した証明書は、次の場合に置き換えることができます。

- HTTPSプロトコルを使用してHP vPVに接続すると、証明書とシステムの名前が比較され、名前が一致することが確認されます。名前が異なる場合は、ほとんどのブラウザで警告が表示され、接続を続行するかキャンセルするかを選択できます。HTTPSユーザーが使用する名前が、HP vPVのインストールで使用された名前と異なる場合は、別の証明書を取得する必要があります。
- HP vPVのインストール時に空白にしていた証明書のフィールドに値を入力する場合は、新しい証明書の取得が必要になる場合があります。証明書には、証明書の発行者などの情報を提供する多くのフィールドおよび証明書によって提供される安全を保証する他のフィールドがあります。HP vPVのインストール証明書のほとんどのフィールドが空白になっています。
- 不正な変更を防ぐために証明書のデフォルトパスワードを変更する場合は、既存の証明書を置き換える必要があります。

Tomcat SSL証明書を置き換えるには、次の手順を実行します。

1. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して既存の証明書を削除します。

```
keytool -delete -alias ovtomcatb -keystore /var/opt/OV/certificates/tomcat/b/tomcat.keystore
```

Linuxのkeytoolのパスは、`/opt/OV/nonOV/jre/b/bin`です。

**注:** 証明書を削除するためのパスワードはchangeitです。

2. HP vPVを再起動します。
3. 新しい証明書を作成します。新しい証明書を作成するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力してKeytoolを実行します。

```
keytool -genkey -alias ovtomcatb -keyalg RSA -keystore  
/var/opt/OV/certificates/tomcat/b/tomcat.keystore
```

4. HP vPVを再起動します。

## デフォルト以外のポートで実行しているvCenterサーバーの追加

vCenter Serverシステムでは、vSphereおよびSDK (Software Development Kit) クライアントからの接続でポート443が必要になります。デフォルトでは、HP vPV 2.20のvCenterコレクターはvCenterサーバーからのデータ収集でポート443を使用しています。このデフォルトのポート443が何らかの理由で環境において再設定される場合は、iptablesを使用してトラフィックをルーティングすることを推奨します。

HP vPV 2.20のインストール時に、iptablesコマンドを実行して、ターゲットそれぞれのポートの転送ルールを設定します。

次の手順を実行します。

1. rootユーザーとしてログオンします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
iptables -t nat -A OUTPUT -p tcp -m tcp -d <ターゲットvCenter IP> --dport 443 -j DNAT --to-destination <ターゲットvCenter IP>:<ターゲットポート>
```

この場合、<ターゲットvCenter IP>はターゲットのvCenterのIPアドレスで、<ターゲットポート>はターゲットのポート番号になります。

## HP vPVコマンドの使用

HP vPV のインストール後、次のコマンドを使用して、コマンドプロンプトからHP vPVワークスペースを管理できます。

<bin\_dir>/pv <オプション>

<オプション>は、次のいずれかの変数で置き換えることができます。

- **status** : HP vPVのステータスを確認します。
- **start** : HP vPVを起動します。  
**pv start**コマンドを実行すると、OvTomcatBを使用するすべてのアプリケーションが起動します。
- **stop** : HP vPVを停止します。  
**pv stop**コマンドを実行すると、OvTomcatBを使用するすべてのアプリケーションが停止します。
- **restart** : HP vPVを停止してから起動します。
- **trace on** : 詳細なトレースファイルの生成を開始します。
- **trace off** : 詳細なトレースファイルの生成を停止します。
- **version** : システムにインストールされているHP vPVのバージョンを表示します。

## リモートのHP Verticaと通信するためのHP vPVの設定

HP Verticaのリモートインスタンスと通信するように、HP Virtualization Performance Viewerを設定できます。

次の手順を実行して、HP Verticaのリモートインスタンスと通信するようにHP Virtualization Performance Viewerを設定します。

**HP vPVのデータベースインスタンスが作成されるマシン:**

1. HP Verticaシステムへのデータベースインスタンスのログインを作成するには、次のコマンドを実行します。

```
su <dbadminuser> -c "/opt/vertica/bin/adminTools -t create_db -s <hostname> -d pv -c <Vertica_DB_Path>/catalog -D <Vertica_DB_Path>/data"
```

この例では、

dbadminuserはデータベース管理者ユーザーです。

hostnameはHP Verticaシステムのホスト名またはIPアドレスです。

Vertica\_DB\_PathはHP Verticaのデータベースパスです。

例 : su dbadmin -c "/opt/vertica/bin/adminTools -t create\_db -s 10.20.10.1 -d pv -c /vertica\_disk/catalog -D /vertica\_disk/data"

2. HP Verticaユーザーを作成します。次のコマンドを順に実行して、パブリックスキーマへのアクセス権を持つHP Verticaユーザーを作成します。

- su <dbadminuser> /opt/vertica/bin/vsql -c "CREATE USER <UserName> IDENTIFIED BY '<Userpassword>'"

- su <dbadminuser> /opt/vertica/bin/vsql -c "GRANT ALL ON SCHEMA PUBLIC to <UserName>"

この例では、

dbadminuserはデータベース管理者ユーザーです。

UserNameはデータベースインスタンスのユーザー名です。

Userpasswordはデータベースインスタンスのパスワードです。

#### HP vPVシステム:

1. rootユーザーとしてログオンします。
2. 次のコマンドを実行して、**ovtomcatB**および**pvcd**プロセスを停止します。  

```
/opt/OV/bin/ovc -stop
```
3. 次のコマンドを実行して、ローカルのHP Verticaインスタンスを停止します。  

```
/opt/OV/bin/pv_vertica stop
```
4. /var/opt/OV/conf/perf/に移動します
5. **PVHibernate.props** ファイルを開きます。 **PVHibernate.props** ファイルの次の属性を編集します。
  - a. hibernate.connection.url = jdbc:vertica://<IPアドレス>:<ポート番号>/pvを設定します

この例では、

IPアドレスはリモートのHP VerticaインスタンスのIPアドレスになります

**注:**HP Verticaがクラスターにインストールされている場合、IPアドレスはそれぞれのクラスターの仮想IPアドレスになります。

ポート番号はリモートのHP Verticaインスタンスのポート番号になります

- b. hibernate.connection.username=<ユーザー名>を設定します。

この例では、

ユーザー名はリモートのHP Verticaインスタンスのユーザー名になります

- c. `hibernate.connection.password=<パスワード>`を設定します

この例では、

パスワードはリモートのHP Verticaインスタンスの暗号化されたパスワードになります

**注:**暗号化されたパスワードを取得するには、次のコマンドを実行します。

```
pvconfig -en <パスワード>
```

この例では、パスワードはリモートのHP Verticaインスタンスの複合化されたパスワードになります。

6. 設定データベース内のユーザー名、パスワード、および接続文字列を更新するには、次のコマンドを実行します。

- a. `ovconfchg -ns pvcd.dml -set username "<ユーザー名>"`

この例では、

ユーザー名はリモートのHP Verticaインスタンスのユーザー名になります

- b. `ovconfchg -ns pvcd.dml -set password "<パスワード>"`

この例では、

パスワードはリモートのHP Verticaインスタンスの暗号化されたパスワードになります

**注:**暗号化されたパスワードを取得するには、次のコマンドを実行します。

```
pvconfig -en <パスワード>
```

この例では、パスワードはリモートのHP Verticaインスタンスの複合化されたパスワードになります。

- c. `ovconfchg -ns pvcd.dml -set ConnectionString "DSN=Vertica;SERVERNAME=<IPアドレス>;PORT=<ポート番号>;"`

この例では、

IPアドレスはリモートのHP VerticaインスタンスのIPアドレスになります

**注:**HP Verticaがクラスターにインストールされている場合、IPアドレスはそれぞれのクラスターの仮想IPアドレスになります。

ポート番号はリモートのHP Verticaインスタンスのポート番号になります

7. 次のコマンドを順に実行して、HP vPVシステムでデータベーススキーマを作成します。

- `/opt/OV/bin/pvsql -f /opt/OV/newconfig/OVPM/vertica/CreateTables_Vertica.sql`
- `/opt/OV/bin/pvsql -f /opt/OV/newconfig/OVPM/vertica/DummyData_Vertica.sql`
- `/opt/OV/bin/pvsql -f /opt/OV/newconfig/DataDir/conf/PV/Model/DMLMetaMetaSchema`

- `/opt/OV/bin/pvsql -f /var/opt/perf/syspulse/scripts/createtable.sql`
  - `/opt/OV/bin/pvsql -f /opt/OV/newconfig/OVPM/vertica/Create_Custom_Projections.sql`
8. 次のコマンドを実行して、HP vPVプロセスを起動します。
- `/opt/OV/bin/pvconfig -um`
  - `/opt/OV/bin/ovc -start`

## 第7章: ライセンス管理

HP vPVのインストール後、ビジネス上の要件に基づく適切なライセンスの購入が可能です。これらのライセンスによって、製品のすべての機能にアクセスできるようになります。各ライセンスを購入するには、**[評価版/コミュニティライセンスを使用しています。ライセンスを購入するにはクリックしてください。]**をクリックします。このリンクから**[ライセンスの購入]**ページに移動できます。**[ご連絡ください]**タブに詳細を入力して、**[送信]**をクリックします。電子メールクライアントがブラウザで設定されていることを確認します。

HP vPVユーザーインターフェイスで**[ライセンス]**オプションにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. HP vPVのユーザーインターフェイスにログインします。
2. **[設定]**アイコンをクリックします。  
[設定] ページが表示されます。
3. [設定] ページで、**[ライセンス]**オプションをクリックします。  
[ライセンス] ページが表示されます。

[ライセンス] ページには、HP vPVのライセンスに関する情報が表示されます。また、このタブを使用して、評価ライセンスの使用を開始したり、HP vPVのライセンスをインポートしたりできます。ライセンスのインポートの詳細については、**「ライセンスのインポート」**を参照してください。

**注:** コミュニティライセンスを使用するHP vPVサーバーにエクスプレスライセンスをインストールすると、エクスプレスライセンスがコミュニティライセンスをオーバーライドします。

コミュニティライセンスを保持する場合は、別個のHP vPVサーバーを作成してコミュニティライセンスをインストールします。

ライセンス間の違いおよび利用可能な機能の詳細については、**「ライセンスのタイプ」**を参照してください。

## ユーザーインターフェイス

次の表に、[ライセンス]オプションの各セクションを示します。

セクション	説明
ライセンスステータス	[ライセンスステータス]セクションには、HP vPVの現在のライセンスに関する次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• アクティブなライセンスによって提供されるOSインスタンスの最大数</li><li>• アクティブなライセンスによって現在監視されているOSインスタンスの数</li></ul>

セクション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ保有期間</li> <li>サーバーインスタンスライセンスを有効にしている場合、合計のサーバーインスタンス容量、現在のサーバーインスタンス容量、サーバーライセンスで対応されるOSインスタンスを表示できます。</li> <li>ライセンスアラートのしきい値</li> </ul>
インストール済みライセンス一覧	<p>[インストール済みライセンス一覧] セクションには、HP vPVのアクティブなライセンスおよびインストールされているすべてのライセンスに関する次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インストールされているライセンスのタイプ</li> <li>ライセンスが期限切れになる日付</li> </ul>

**注:** OSインスタンスの数は、VMとホストの数のみを示します。

## ライセンスのタイプ

HP vPVは、コミュニティ、エクスプレス、プレミアム、評価版、監視専用、およびサーバーインスタンスライセンスを提供します。

**注:** コミュニティライセンスで監視できるOSインスタンスの最大数は25です。OSインスタンスの数は、VMとホストの数のみを示します。HP vPVでは、エクスプレス、プレミアム、評価版ライセンスを使用して最大10,000のOSインスタンスを監視することを推奨します。ただし、より大規模な構成をサポート可能です。詳細については、『HP vPV Sizing Guide』を参照してください。監視専用ライセンスでサポートされるOSインスタンス数に制限はありません。

次の表に、HP vPVの各ライセンスで利用可能な機能を示します。

機能	コミュニティライセンス	エクスプレスライセンス	プレミアムライセンス	評価ライセンス	ライセンスの監視	サーバーライセンス
データ保有期間	最大24時間	90日間	90日間	60日間	8日間	90日間
ライセンス付与期間	永久	永久/期限付き	永久/期限付き	60日間	永久	永久
Enterprise Directoryの統合	なし	あり	あり	あり	なし	あり

機能	コミュニティライセンス	エクスプレスライセンス	プレミアムライセンス	評価ライセンス	ライセンスの監視	サーバーライセンス
レポート	あり	あり	あり	あり	なし	あり
HP OM、HP OMi、HP PM、およびHP BSMの統合	なし	あり	あり	あり	あり	あり
監視	なし	あり	あり	あり	あり	あり
HP CSAの統合	なし	なし	あり	あり	なし	あり
ビジネスグループ化	なし	なし	あり	あり	なし	あり
HP OneViewの統合	なし	なし	あり	あり	なし	あり
物理サーバーの監視	なし	なし	あり	あり	なし	あり
高度なトラブルシューティング用のゲストOSドリルダウン	なし	なし	あり	あり	なし	あり
現在の容量レポート (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり
容量の最適化 (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり
仮想マシンの配置 (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり



機能	コミュニティライセンス	エクスプレスライセンス	プレミアムライセンス	評価ライセンス	ライセンスの監視	サーバーライセンス
容量の需要予測 (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり
アラート (VMware™ vSphere、Microsoft™ HyperVおよびKVMのみ)	なし	あり	あり	あり	なし	あり
容量モデラー (VMware™ vSphere およびKVMのみ)	なし	なし	あり	あり	なし	あり
ダッシュボード	なし	なし	あり	あり	なし	あり

**注:** OSインスタンスの数は、VMとホストの数のみを示します。

評価ライセンスでは、製品のすべての機能を利用できます。評価ライセンスとプレミアムライセンスは、有効期間のみが異なります。

### 評価ライセンス

HP vPVをインストールした後のアクティブなライセンスは、デフォルトでコミュニティライセンスになります。評価モードのHP vPVの使用を開始するには、[評価の開始]をクリックします。ページが更新されて、評価ライセンスに関する情報が表示されます。

評価ライセンスが(60日経過後に)期限切れになると、ライセンスは自動的にコミュニティライセンスに変更されます。

評価版ライセンスをユーザーインターフェイスおよびコマンド行から有効にすることができます。

#### ユーザーインターフェイスの使用

評価版ライセンスをユーザーインターフェイスから有効にするには、次の手順を実行します。

1. [設定] ページの [ライセンス] オプションに移動します。
2. [評価版ライセンス] リンクをクリックします。

#### コマンド行の使用

評価版ライセンスをコマンド行から有効にするには、次の手順を実行します。

1. HP vPVマシンで、rootユーザーとしてログオンします。
2. 次のコマンドを実行して、評価版ライセンスをアクティブ化します。

```
pv starteval
```

**注:** データ収集は、すべてのデータソースからのインスタンスの合計が、ライセンスのインスタンス容量の上限以下である場合にのみ稼働します。合計インスタンス数がライセンスのインスタンス容量の上限を超える場合、すべてのデータソースに対するデータ収集が停止します。たとえば、100インスタンスのプレミアムライセンスがインストールされている場合に、2つのホストそれぞれに60インスタンスを接続しようとする、両方のホストの収集が失敗します。

### 監視専用ライセンス

HP vPVがHP Operations Manager/HP Operations Manager i (HPOM/OMi) と統合されているときに、HP vPVの監視機能のみを使用する場合は、監視専用ライセンスを有効化できます。監視専用ライセンスでは、HP vPVの [設定] オプションの限定された機能のみを使用できます。その他のHP vPV機能はすべて無効になります。

監視ライセンスは、ユーザーインターフェイスおよびコマンド行から有効化できます。

#### ユーザーインターフェイスの使用

ユーザーインターフェイスから監視ライセンスを有効化するには、次の手順を実行します。

1. [設定] ページの [ライセンス] オプションに移動します。
2. [監視専用ライセンスの開始] リンクをクリックします。

#### コマンド行の使用

コマンド行から監視ライセンスを有効化するには、次の手順を実行します。

1. HP vPVマシンにルートユーザーとしてログオンします。
2. 次のコマンドを実行して、監視専用ライセンスをアクティベートします。

```
pv startmonitoringonly
```

評価、プレミアム、エクスプレスライセンスは、既存の監視ライセンスをオーバーライドします。それぞれのライセンス資格期間の終了後、HP vPVでは監視ライセンス機能が復帰します。

同様に、HP vPVを評価モードで使用している場合に、監視ライセンスを有効化すると、すべての機能は評価期間の間のみ使用できます。評価ライセンスの有効期限が過ぎると、監視ライセンスがアクティブのままになります。

### サーバーライセンス

HP vPVサーバーライセンスを有効にしてHP OneViewで管理されるサーバーを監視できます。単一のサーバーライセンスインスタンスで、サーバーライセンスで対応されるサーバー上で実行しているすべてのOSインスタンスを監視することが可能です。サーバーライセンスは利用可能な機能に関してプレミアムライセンスとほぼ同じです。

**注:** 有効なサーバーインスタンスライセンスの最大数は、HP OneViewで管理される最大サーバー数以下になります。

次の表に、各ライセンスのシナリオでのHP vPVの動作を要約します。

現在アクティブなライセンス	適用されたライセンス	動作
コミュニティ/評価版/監視専用/ エクスプレス	サーバーライセンス	<p>サーバーライセンスは既存のライセンスをオーバーライドします。ライセンスされた合計のインスタンス数はサーバーライセンスで対応されたOSインスタンスと等しくなります。</p> <p><b>注:</b>サーバーライセンスで対応されないサーバー上で実行しているOSインスタンスがある場合、データ収集は停止します。データ収集を開始するために、十分な容量を備えた追加のライセンスをインストールできます。</p>
プレミアム	サーバーライセンス	<p>サーバーライセンスはプレミアムライセンスと共存できます。ライセンスされた合計のインスタンス数はプレミアムライセンスおよびサーバーライセンスで対応されたOSインスタンスと等しくなります。</p> <p><b>注:</b>サーバーライセンスで対応されたサーバー上で実行しているOSインスタンスは、現在のOSインスタンス数から引かれます。この結果、追加のOSインスタンス容量を得られます。</p>
サーバーライセンス	プレミアム	<p>サーバーライセンスはプレミアムライセンスと共存できます。ライセンスされた合計のインスタンス数はプレミアムライセンスおよびサーバーライセンスで対応されたOSインスタンスと等しくなります。</p>
サーバーライセンス	コミュニティ/評価版/ 監視専用/エクス プレス	サポートされません。

**注:**HP OneViewで管理されるサーバーの数はサーバーライセンス容量を超える場合、サーバーは関連付けられているインスタンスの数に基づいて選択されます。インスタンスの最大数を持つサーバーが、サーバーライセンスによる監視対象として自動的に選択されます。

## ライセンスのインポート

ライセンスを購入したら、HP vPVを使用して開始する前にインポートする必要があります。

HP vPVのライセンスをインポートするには、次の手順を実行します。

1. **[設定]** ページの **[ライセンス]** オプションに移動します。
2. **[ライセンス ステータス]** セクションで、**[ライセンスのインポート]** リンクをクリックします。  
**[ライセンスの管理]** ページが表示されます。
3. **[ライセンスの管理]** セクションの **[ライセンスキー]** フィールドにライセンスキーを入力します。
4. **[ライセンスのインポート]** をクリックします。**[インストール済みライセンス一覧]** セクションが更新され、インポートされたライセンスの詳細が表示されます。  
入力したライセンスキーをクリアするには、**[リセット]** をクリックします。

## 第8章: HP vPVの削除

次の項に記述される手順を使用することで、LinuxシステムにインストールされたHP vPVを削除できます。

### HP vPV仮想アプライアンス

HP vPV仮想アプライアンスを削除するには、VMの電源をオフにしてからVMを削除します。

### LinuxノードからのHP vPVの削除

HP vPVをLinuxシステムから削除するには、次の手順を実行します。

1. まず、root ユーザーとしてログオンします。
2. /opt/OV/Uninstall/HPPVに移動します。
3. アンインストールコマンドを実行します。
  - X11インターフェイスを使用するには、必要に応じてDISPLAY変数をエクスポートして、X11ターミナルをポイントします。次に、コマンドを実行します。

```
./setup.bin
```
  - コマンド行インターフェイスを使用するには、次のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -i console
```
4. [アンインストール]を選択します。

### 構成およびユーザーグラフテンプレートの削除

HP vPVを削除しても、構成またはユーザーグラフテンプレートは削除されません。ファイルをデータディレクトリから手動で削除する必要があります。

### クリーンアップスクリプトを使用したHP vPV ファイルの削除

HP vPVを削除した後、次のクリーンアップスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、<install\_dir>\supportにあります。

- `clnup_pv.sh` (Linuxの場合)

クリーンアップスクリプトによって<data\_dir>\conf\perfから次のファイルが削除されます。

- `PVconfig.ini`
- `OVPMUsers.xml`
- `OVPMSystems.xml`
- `ovpm.tcf`
- `VPI_GraphsUserFavorites.txt`
- `OVPMReportTemplate.htm`
- 「VPI\_」で始まる名前のすべてのフォルダー。
- すべてのPVデータベース関連ファイル

**注:** 同じシステムにHP vPVを再インストールする場合は、必ずクリーンアップスクリプトの実行後に次のフォルダーを削除してください。

- `/opt/OV/`
- `/opt/vertica/`
- `/var/opt/OV/`

# 第9章: HP vPVのトラブルシューティング

本項では、HP vPVをトラブルシューティングする方法について説明します。

**ログファイルサイズの増加のため、Verticaデータベースの空き容量がほとんどなくなる。**

現象	ログファイルサイズの増加のため、Verticaデータベースの空き容量がほとんどなくなってしまいます。
原因	Verticaデータベースは、ログデータを日次で.gzファイルに統合、保管します。デフォルトでは、「ローテーション」というこの処理は52週にわたり続きます。
解決策	<p>Verticaデータベースの容量を増やすには、次の2つのソリューションのいずれかを実施します。</p> <p><b>ソリューション1</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. <b>/opt/vertica/config/logrotate/</b>に移動します。</li><li>2. <b>pv</b>ファイルを開きます。</li><li>3. <b>pv</b>ファイルの<b># and keep for 52 weeks</b>で、<b>rotate</b>の値を52からローテーションされたログファイルを保存する週数に変更します。</li></ol> <p><b>例 :rotate 3</b></p> <p>この場合、Verticaデータベースは3週にわたり.gzファイルを保管します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>4. すべての<b># and keep for 52 weeks</b>インスタンスに対して、<b>手順3</b>を繰り返します。</li><li>5. ファイルを保存して閉じます。</li></ol> <p><b>ソリューション2</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. rootユーザーとしてログインします。</li><li>2. HP vPVサーバーで次のコマンドを実行します。</li></ol> <pre>cd /opt/vertica/bin ./admintools -t logrotate -d pv -r weekly -k &lt;number_of_weeks&gt;</pre> <p>ここで&lt;number_of_weeks&gt;は、ローテーションされたログを保管する週数です。</p>

## HP vPVにアクセスできない

現象	デフォルトのネットワークポート設定を使用してHP vPVにアクセスできません。
原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>rootではないユーザーまたは非ローカルシステムアカウント権限で動作するようにovTomcatBが設定されているシステムに、HP vPVがインストールされています。</li> <li>デフォルトのhttpポート (8081) またはhttpsポート (8444) が他のアプリケーションによって使用中の場合、それらのポートを使用してHP vPVにアクセスすることはできません。</li> </ul>
解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>rootではないユーザーまたは非ローカルシステムアカウント権限で動作するようにovTomcatBが設定されているかどうかを確認します。そのように設定されていた場合、管理者権限またはrootユーザー権限でovTomcatBが動作するように設定を変更します。</li> <li>次のURLを使用してHP vPVにアクセスします。 http://&lt;IPアドレス/システム名&gt;:&lt;ポート番号&gt;/PV &lt;IP アドレス/システム名&gt;がHP vPVサーバーのIPアドレスまたはシステム名で、&lt;ポート番号&gt;がHP vPVサーバーのポート番号の場合。 HP vPVのホームページが表示されない場合、デフォルトポートが使用中かどうかを確認します。</li> <li>ポート設定を変更するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して、HTTPポート、HTTPSポート、およびシャットダウンポートのポート番号を変更します。 &lt;bin_dir&gt;ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPPort &lt;ポート番号&gt; &lt;bin_dir&gt;ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPSPort &lt;ポート番号&gt; &lt;bin_dir&gt;ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set ShutdownPort &lt;ポート番号&gt;</li> <li>HP vPVを再起動します。</li> </ol> </li> </ul>

## HTTPSプロトコルを使用してHP vPVサーバーに接続することができない

現象	セキュリティ保護されたHTTPS通信プロトコルを使用してHP vPVからサーバーに接続することができません。
原因	HP vPVがセキュリティ保護されたクライアントから、デフォルトのタイムアウト間隔である1秒以内に接続できない場合、接続がタイムアウトします。
解決策	ご使用のインターネット接続またはインフラストラクチャ設定に応じて、パラメーター <b>SECURE_CLIENT_CONNECT_TIMEOUT</b> を使用して、HP vPVサーバーに接続する際のタイムアウト間隔を調整します。



**HP vPVのデプロイが失敗する**

現象	HP vPV Virtual Applianceのデプロイが失敗します。
原因	この現象は、ESXサーバーの時間が将来の時間に設定されていない場合に起こることがあります。
解決策	ESXサーバーの時間が正しく設定されていることを確認します。

**HP vPVのホームページのコンテンツを表示できない**

現象	HP vPVのホームページには見出し以外に何も表示されません。
原因	ブラウザで、JavaScriptが有効になっていないか、またはAdobe® Flash Playerがインストールされていません。最低限必要なバージョンは、Adobe® Flash Playerバージョン10.3です。
解決策	<p>Adobe® Flash Playerをインストールし、Internet Explorer (IE) またはMozilla Firefoxブラウザで、信頼済みサイトのリストにHP vPVを追加することによって、JavaScriptのサポートを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● HP vPVのWebサーバーのURLを信頼済みサイトに追加するには、次の手順を実行します。</li> </ul> <p>IEブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [ツール] メニューの[インターネット オプション]をクリックします。[インターネット オプション] ポップアップウィンドウが表示されます。</li> <li>b. [セキュリティ] タブをクリックします。</li> <li>c. [信頼済みサイト] アイコンを選択します。</li> <li>d. [サイト] をクリックします。[信頼済みサイト] ポップアップウィンドウが表示されます。</li> <li>e. HP vPVのWebサーバーのURLを入力して [追加] をクリックします。入力したURLが信頼済みサイトのリストに表示されます。</li> <li>f. [閉じる] をクリックします。</li> <li>g. [OK] をクリックします。</li> <li>h. ブラウザーを再起動します。</li> </ol> <p>Mozilla Firefoxブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [編集] メニューの[設定] をクリックします。[オプション] ポップアップウィンドウが表示されます。</li> <li>b. [プライバシー] タブをクリックします。</li> <li>c. [許可サイト] をクリックします。</li> <li>d. [サイトのアドレス] の下のボックスに、HP vPVのWebサーバーのURLを入</li> </ol>

	<p>力します。</p> <p>e. <b>[許可]</b> をクリックします。</p> <p>f. <b>[閉じる]</b> をクリックします。</p> <p>g. <b>[OK]</b> をクリックします。</p> <p>h. ブラウザーを再起動します。</p>
解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Adobe® Flash Playerがブラウザーにインストールされていない場合、HP vPVのホームページは表示されません。HP vPVのホームページを表示するにはAdobe Flash Playerをインストールする必要があることを伝えるメッセージがブラウザーに表示されます。このメッセージをクリックして、Adobe® Flash Playerをダウンロードします。</li> <li>● IEブラウザーの場合、HP vPVのホームページを信頼済みサイトに追加しても、JavaScriptが有効になっていなければ、このページを表示することはできません。ブラウザーでJavaScriptが有効になっていないこと、およびページを表示するにはJavaScriptを有効にする必要があることを伝えるメッセージがブラウザーに表示されます。</li> </ul> <p>JavaScriptのサポートを有効にするには、次の手順を実行します。</p> <p>IEブラウザーの場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [ツール] メニューの [<b>インターネット オプション</b>] をクリックします。[インターネット オプション] ポップアップウィンドウが表示されます。</li> <li>b. [<b>セキュリティ</b>] タブをクリックします。ブラウザー設定のセキュリティレベルが [<b>高</b>] に設定されているかどうかを確認します。</li> <li>c. [<b>信頼済みサイト</b>] アイコンが選択されていることを確認し、[<b>レベルのカスタマイズ</b>] をクリックします。[セキュリティの設定] ポップアップウィンドウが表示されます。</li> <li>d. [スクリプト] セクションまでスクロールして、[<b>アクティブ スクリプト</b>] の [<b>有効にする</b>] オプションを選択します。</li> <li>e. <b>[OK]</b> をクリックします。</li> <li>f. [<b>適用</b>] をクリックします。</li> </ol> <p>Mozilla Firefoxブラウザーの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>a. [ツール] メニューの [<b>オプション</b>] をクリックします。</li> <li>b. [<b>目次</b>] をクリックします。</li> <li>c. [<b>JavaScriptを有効にする</b>] チェックボックスを選択します。</li> <li>d. <b>[OK]</b> をクリックします。</li> </ol>

**HTTPステータス404 - /PVエラー**

現象	HP vPVにアクセスすると、「HTTPステータス404 - /PVエラー」というメッセージが表示されます。
原因	このメッセージは、<インストールディレクトリ>/www/webapps/PVディレクトリが空の場合に表示されます。
解決策	もう一度、<インストールディレクトリ>/newconfig/PVからPerf.warファイルを<インストールディレクトリ>/www/webapps/PVに抽出します。コマンドpv deploywar.を実行します。

**HP vPVで使用可能なログファイルは何ですか?**

次の表にHP vPVで使用できるログファイルを示します。

コンポーネント	説明	場所
pvcd (PV収集デーモン)	pvcdデーモンはXPLトレースメカニズムを使用します。デフォルトのpvcdXPL.itc (トレース設定) は、/opt/OV/supportディレクトリにあります。  トレースを開始するには、 /opt/OV/support/ovtrccfg -app pvcd -cf /opt/OV/newconfig/conf/xpl/trc/pvcdXPL.itcを実行します。XPLトレースファイルは/tmp/pvcd_*.trcにあります。  トレースを停止するには、 /opt/OV/support/ovtrccfg -app pvcd -offを実行します。	トレースが有効になっている場合、/tmp/directoryにトレースファイルが格納されます ( -ls /tmp/pvcd_*.trcを使用)
	System.txtのpvcdおよびpvconfigツールログの重要ステータスおよびエラーメッセージ (存在する場合)。	/var/opt/OV/log/System.txt
コレクター	vCenterおよびOpenStackコレクターステータスログファイル /var/opt/OV/log/status.virtserver	/var/opt/OV/log/status.virtserver
	KVMコレクターステータスログファイル	/var/opt/OV/log/status.kvm
	XENコレクターステータスログファイル	/var/opt/OV/log/tmp/status.xen

コンポーネント	説明	場所
データベーストランザクション	データベーストランザクションを表示するためのVerticaカタログファイル	/var/opt/OV/databases/pv/catalog/pv/v_pv_node0001_catalog/vertica.log
ユーザーインターフェイス	ローカルトレースおよびログメッセージはovpmtrace.0.txtおよびovpm.0.logに記録されます	/var/opt/OV/log

# 付録:HP vPV仮想アプライアンスに付属するRPM

HP vPV仮想アプライアンスに付属するRPMには、次のものがあります。

- setup-2.8.14-20.el6.noarch
- basesystem-10.0-4.el6.noarch
- tzdata-2012j-1.el6.noarch
- glibc-common-2.12-1.107.el6.x86\_64
- ncurses-libs-5.7-3.20090208.el6.x86\_64
- libattr-2.4.44-7.el6.x86\_64
- zlib-1.2.3-29.el6.x86\_64
- audit-libs-2.2-2.el6.x86\_64
- popt-1.13-7.el6.x86\_64
- db4-4.7.25-17.el6.x86\_64
- nspr-4.9.2-1.el6.x86\_64
- bzip2-libs-1.0.5-7.el6\_0.x86\_64
- libselinux-2.0.94-5.3.el6.x86\_64
- sed-4.2.1-10.el6.x86\_64
- glib2-2.22.5-7.el6.x86\_64
- gawk-3.1.7-10.el6.x86\_64
- sqlite-3.6.20-1.el6.x86\_64
- libxml2-2.7.6-8.el6\_3.4.x86\_64
- libstdc4.4.7-3.el6.x86\_64
- dbus-libs-1.2.24-7.el6\_3.x86\_64
- grep-2.6.3-3.el6.x86\_64
- findutils-4.4.2-6.el6.x86\_64
- cyrus-sasl-lib-2.1.23-13.el6\_3.1.x86\_64
- libblkid-2.17.2-12.9.el6.x86\_64
- keyutils-libs-1.4-4.el6.x86\_64
- libgssglue-0.1-11.el6.x86\_64
- libpgp-error-1.7-4.el6.x86\_64
- vim-minimal-7.2.411-1.8.el6.x86\_64

- checkpolicy-2.0.22-1.el6.x86\_64
- sysvinit-tools-2.87-4.dsf.el6.x86\_64
- perl-Pod-Escapes-1.04-129.el6.x86\_64
- perl-Module-Pluggable-3.90-129.el6.x86\_64
- perl-libs-5.10.1-129.el6.x86\_64
- pth-2.0.7-9.3.el6.x86\_64
- keyutils-1.4-4.el6.x86\_64
- grubby-7.0.15-3.el6.x86\_64
- upstart-0.6.5-12.el6.x86\_64
- libusb-0.1.12-23.el6.x86\_64
- nss-softokn-3.12.9-11.el6.x86\_64
- xz-lzma-compatible-4.999.9-0.3.beta.20091007git.el6.x86\_64
- MAKEDEV-3.24-6.el6.x86\_64
- net-tools-1.60-110.el6\_2.x86\_64
- tar-1.23-11.el6.x86\_64
- pinentry-0.7.6-6.el6.x86\_64
- e2fsprogs-libs-1.41.12-14.el6.x86\_64
- which-2.19-6.el6.x86\_64
- diffutils-2.8.1-28.el6.x86\_64
- dash-0.5.5.1-4.el6.x86\_64
- groff-1.18.1.4-21.el6.x86\_64
- coreutils-libs-8.4-19.el6.x86\_64
- cracklib-2.8.16-4.el6.x86\_64
- coreutils-8.4-19.el6.x86\_64
- module-init-tools-3.9-21.el6.x86\_64
- redhat-logos-60.0.14-12.el6.centos.noarch
- libpciaccess-0.13.1-2.el6.x86\_64
- rpcbind-0.2.0-11.el6.x86\_64
- nss-3.14.0.0-12.el6.x86\_64
- nss-tools-3.14.0.0-12.el6.x86\_64
- libuser-0.56.13-5.el6.x86\_64
- pciutils-libs-3.1.10-2.el6.x86\_64
- mingetty-1.08-5.el6.x86\_64
- ustr-1.0.4-9.1.el6.x86\_64
- libffi-3.0.5-3.2.el6.x86\_64

- newt-0.52.11-3.el6.x86\_64
- ca-certificates-2010.63-3.el6\_1.5.noarch
- python-libs-2.6.6-36.el6.x86\_64
- libssh2-1.4.2-1.el6.x86\_64
- curl-7.19.7-35.el6.x86\_64
- rpm-4.8.0-32.el6.x86\_64
- python-pycurl-7.19.0-8.el6.x86\_64
- gnupg2-2.0.14-4.el6.x86\_64
- pygpgme-0.1-18.20090824bzc68.el6.x86\_64
- yum-metadata-parser-1.1.2-16.el6.x86\_64
- yum-plugin-fastestmirror-1.1.30-14.el6.noarch
- bind-libs-9.8.2-0.17.rc1.el6.x86\_64
- fipscheck-lib-1.2.0-7.el6.x86\_64
- kbd-misc-1.15-11.el6.noarch
- policycoreutils-2.0.83-19.30.el6.x86\_64
- iproute-2.6.32-23.el6.x86\_64
- util-linux-ng-2.17.2-12.9.el6.x86\_64
- udev-147-2.46.el6.x86\_64
- plymouth-0.8.3-27.el6.centos.x86\_64
- dracut-004-303.el6.noarch
- rsyslog-5.8.10-6.el6.x86\_64
- cyrus-sasl-2.1.23-13.el6\_3.1.x86\_64
- cronie-anacron-1.4.4-7.el6.x86\_64
- crontabs-1.10-33.el6.noarch
- nfs-utils-1.2.3-36.el6.x86\_64
- selinux-policy-3.7.19-195.el6.noarch
- kernel-firmware-2.6.32-358.el6.noarch
- dhclient-4.1.1-34.P1.el6.centos.x86\_64
- system-config-firewall-base-1.2.27-5.el6.noarch
- bfa-firmware-3.0.3.1-1.el6.noarch
- iwl100-firmware-39.31.5.1-1.el6.noarch
- b43-openfwfw-5.2-4.el6.noarch
- aic94xx-firmware-30-2.el6.noarch
- iwl1000-firmware-39.31.5.1-1.el6.noarch
- authconfig-6.1.12-13.el6.x86\_64

- gettext-0.17-16.el6.x86\_64
- grub-0.97-81.el6.x86\_64
- wget-1.12-1.8.el6.x86\_64
- passwd-0.77-4.el6\_2.2.x86\_64
- audit-2.2-2.el6.x86\_64
- acl-2.2.49-6.el6.x86\_64
- ql2400-firmware-5.08.00-1.el6.noarch
- ql2100-firmware-1.19.38-3.1.el6.noarch
- libertas-usb8388-firmware-5.110.22.p23-3.1.el6.noarch
- ql2500-firmware-5.08.00-1.el6.noarch
- zd1211-firmware-1.4-4.el6.noarch
- rt61pci-firmware-1.2-7.el6.noarch
- ql2200-firmware-2.02.08-3.1.el6.noarch
- ipw2100-firmware-1.3-11.el6.noarch
- ipw2200-firmware-3.1-4.el6.noarch
- vmware-studio-vami-tools-2.6.0.0-631426.x86\_64
- vmware-studio-vami-servicebase-2.6.0.0-631426.x86\_64
- vmware-studio-vami-service-system-2.6.0.0-0.x86\_64
- vmware-studio-vami-service-oaconfig-1.0.0.0-0.x86\_64
- vmware-studio-appliance-config-2.6.0.0-130820235403.noarch
- vmware-studio-vami-login-2.6.0.0-631426.x86\_64
- libgcc-4.4.7-3.el6.x86\_64
- filesystem-2.4.30-3.el6.x86\_64
- ncurses-base-5.7-3.20090208.el6.x86\_64
- nss-softokn-freebl-3.12.9-11.el6.x86\_64
- glibc-2.12-1.107.el6.x86\_64
- bash-4.1.2-14.el6.x86\_64
- libcap-2.16-5.5.el6.x86\_64
- info-4.13a-8.el6.x86\_64
- libcom\_err-1.41.12-14.el6.x86\_64
- chkconfig-1.3.49.3-2.el6.x86\_64
- libacl-2.2.49-6.el6.x86\_64
- nss-util-3.14.0.0-2.el6.x86\_64
- libsepol-2.0.41-4.el6.x86\_64
- shadow-utils-4.1.4.2-13.el6.x86\_64



- gamin-0.1.10-9.el6.x86\_64
- readline-6.0-4.el6.x86\_64
- xz-libs-4.999.9-0.3.beta.20091007git.el6.x86\_64
- libidn-1.18-2.el6.x86\_64
- file-libs-5.04-15.el6.x86\_64
- tcp\_wrappers-libs-7.6-57.el6.x86\_64
- pcre-7.8-6.el6.x86\_64
- lua-5.1.4-4.1.el6.x86\_64
- bzip2-1.0.5-7.el6\_0.x86\_64
- libuuid-2.17.2-12.9.el6.x86\_64
- expat-2.0.1-11.el6\_2.x86\_64
- krb5-libs-1.10.3-10.el6.x86\_64
- elfutils-libelf-0.152-1.el6.x86\_64
- libtirpc-0.2.1-5.el6.x86\_64
- libselinux-utils-2.0.94-5.3.el6.x86\_64
- cpio-2.10-11.el6\_3.x86\_64
- gdbm-1.8.0-36.el6.x86\_64
- perl-version-0.77-129.el6.x86\_64
- perl-Pod-Simple-3.13-129.el6.x86\_64
- perl-5.10.1-129.el6.x86\_64
- libgcrypt-1.4.5-9.el6\_2.2.x86\_64
- dbus-glib-0.86-5.el6.x86\_64
- libnih-1.0.1-7.el6.x86\_64
- gmp-4.3.1-7.el6\_2.2.x86\_64
- file-5.04-15.el6.x86\_64
- xz-4.999.9-0.3.beta.20091007git.el6.x86\_64
- libutempter-1.1.5-4.1.el6.x86\_64
- procps-3.2.8-25.el6.x86\_64
- psmisc-22.6-15.el6\_0.1.x86\_64
- db4-utils-4.7.25-17.el6.x86\_64
- libss-1.41.12-14.el6.x86\_64
- m4-1.4.13-5.el6.x86\_64
- libgomp-4.4.7-3.el6.x86\_64
- binutils-2.20.51.0.2-5.36.el6.x86\_64
- ncurses-5.7-3.20090208.el6.x86\_64

- less-436-10.el6.x86\_64
- gzip-1.3.12-18.el6.x86\_64
- cracklib-dicts-2.8.16-4.el6.x86\_64
- pam-1.1.1-13.el6.x86\_64
- hwdata-0.233-7.9.el6.noarch
- plymouth-scripts-0.8.3-27.el6.centos.x86\_64
- cvs-1.11.23-15.el6.x86\_64
- logrotate-3.7.8-16.el6.x86\_64
- nss-sysinit-3.14.0.0-12.el6.x86\_64
- openldap-2.4.23-31.el6.x86\_64
- libcap-ng-0.6.4-3.el6\_0.1.x86\_64
- ethtool-3.5-1.el6.x86\_64
- libevent-1.4.13-4.el6.x86\_64
- libsemanage-2.0.43-4.2.el6.x86\_64
- slang-2.2.1-1.el6.x86\_64
- plymouth-core-libs-0.8.3-27.el6.centos.x86\_64
- openssl-1.0.0-27.el6.x86\_64
- python-2.6.6-36.el6.x86\_64
- libcurl-7.19.7-35.el6.x86\_64
- rpm-libs-4.8.0-32.el6.x86\_64
- rpm-python-4.8.0-32.el6.x86\_64
- python-urlgrabber-3.9.1-8.el6.noarch
- gpgme-1.1.8-3.el6.x86\_64
- newt-python-0.52.11-3.el6.x86\_64
- python-iniparse-0.3.1-2.1.el6.noarch
- yum-3.2.29-40.el6.centos.noarch
- mysql-libs-5.1.66-2.el6\_3.x86\_64
- fipscheck-1.2.0-7.el6.x86\_64
- centos-release-6-4.el6.centos.10.x86\_64
- iptables-1.4.7-9.el6.x86\_64
- iputils-20071127-16.el6.x86\_64
- initscripts-9.03.38-1.el6.centos.x86\_64
- libdrm-2.4.39-1.el6.x86\_64
- kbd-1.15-11.el6.x86\_64
- dracut-kernel-004-303.el6.noarch

- openssh-5.3p1-84.1.el6.x86\_64
- postfix-2.6.6-2.2.el6\_1.x86\_64
- crontab-1.4.4-7.el6.x86\_64
- nfs-utils-lib-1.1.5-6.el6.x86\_64
- iptables-ipv6-1.4.7-9.el6.x86\_64
- dhcp-common-4.1.1-34.P1.el6.centos.x86\_64
- kernel-2.6.32-358.el6.x86\_64
- selinux-policy-targeted-3.7.19-195.el6.noarch
- openssh-server-5.3p1-84.1.el6.x86\_64
- iwl5150-firmware-8.24.2.2-1.el6.noarch
- iwl6050-firmware-41.28.5.1-2.el6.noarch
- iwl6000g2a-firmware-17.168.5.3-1.el6.noarch
- iwl6000-firmware-9.221.4.1-1.el6.noarch
- bind-utils-9.8.2-0.17.rc1.el6.x86\_64
- man-1.6f-32.el6.x86\_64
- libxml2-python-2.7.6-8.el6\_3.4.x86\_64
- gdb-7.2-60.el6.x86\_64
- efibootmgr-0.5.4-10.el6.x86\_64
- sudo-1.8.6p3-7.el6.x86\_64
- e2fsprogs-1.41.12-14.el6.x86\_64
- attr-2.4.44-7.el6.x86\_64
- iwl5000-firmware-8.83.5.1\_1-1.el6\_1.1.noarch
- ivtv-firmware-20080701-20.2.noarch
- xorg-x11-drv-ati-firmware-6.99.99-1.el6.noarch
- atmel-firmware-1.3-7.el6.noarch
- iwl4965-firmware-228.61.2.24-2.1.el6.noarch
- iwl3945-firmware-15.32.2.9-4.el6.noarch
- rt73usb-firmware-1.8-7.el6.noarch
- ql23xx-firmware-3.03.27-3.1.el6.noarch
- rootfiles-8.1-6.1.el6.noarch
- vmware-studio-init-2.6.0.0-130820235404.noarch
- vmware-studio-vami-cimom-2.6.0.0-631426.x86\_64
- vmware-studio-vami-service-core-2.6.0.0-0.x86\_64
- vmware-studio-vami-service-network-2.6.0.0-0.x86\_64
- vmware-studio-vami-service-update-2.6.0.0-0.x86\_64

- `vmware-studio-vami-lighttpd-2.6.0.0-631426.x86_64`

# ドキュメントに関するフィード バックの送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

## **Feedback on インストールガイド (Virtualization Performance Viewer 2.20)**

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様のフィードバックをお待ちしております。